別表：講師および講義内容

氏名	居住地	話せる内容・テーマ	プロフィール
天野 秀昭 あまのひであき	東京都	遊び(ことに屋外)の重要性／冒険遊び場とは／プレーリーダーの役割／子ども（幼児から青年）理解／子育て相談／チャイルドラインとは	1958 年東京都葛飾区生まれ。美術短期大学時代の造形教室で子どもと出会い、その後、自閉症児との出会いで遊びの持つ世界の奥深さと出会う。80 年、始まったばかりの官民協働の日本で初めての常設の冒険遊び場「羽根木プレーパーク」で、１年間長期派遣ボランティアとして活動。翌年、職業プレーリーダー国内第１号として活動を開始する。世田谷区内はもちろん、全国に遊びの意義と実際の遊び場づくりを広めようと、各地の遊び場づくりの動きを支援してきた。プレーリーダー養成のためのプログラムの開発・実施のほか、日本で初めての子ども専用の電話「チャイルドライン」の開設・普及にも携わってきた。日本冒険遊び場づくり協会 事務局長。
石田 太介 いしだだいすけ	兵庫県	冒険遊び場とは（それぞれの地域に合った遊び場づくりの重要性／冒険遊び場団体のつながりの大切さ）／冒険遊び場におけるプレーリーダーの役割	1976年兵庫県神戸市生まれ。阪神・淡路大震災に被災したことをきっかけに市民活動を始める。大学時代、兵庫県西宮市のＮＰＯ法人にて被災児童に対するﾚｸﾘｴｰｼｮﾝ活動、不登校児童・震災遺児に対する学習支援活動を行う中で、『自由な遊び』の大切さを知り、２０００年より「にしのみや遊び場つくろう会」にて冒険遊び場活動を始める。04年～06年まで兵庫県子どもの冒険ひろば事業にて専従ーリーダーに就く。現在も、関西のみならず全国の冒険遊び場活動者が遊びの大切さを、より深く考え、楽しく活動できるようガンバり中！日本冒険遊び場づくり協会 地域運営委員。
梶木 典子 かじきのりこ	兵庫県	冒険遊び場とは／全国の冒険遊び場づくり事情／地域住民と行政のパートナーシップ事業あれこれ／プレーリーダーの役割／子どもの遊びと公園／子どもの遊び環境	神戸市在住。大学卒業後、建設会社勤務を経て、アメリカの大学院進学。帰国後、出産と阪神・淡路大震災で被災したことをきっかけに、子どもの遊び環境について研究しようと決心し、冒険遊び場づくりの現場をフィールドに調査研究を進め、博士学位取得。現在、神戸女子大学に勤務。全国の冒険遊び場づくり実態の調査や、自治体の冒険遊び場事業への関わり調査などを継続的に実施している。日本冒険遊び場づくり協会 副代表。
川口 裕之 かわぐちひろゆき	大阪府	子どもにとっての遊び／自然の中で遊ぶ／冒険遊び場の運営にまつわるあれこれ	1965 年生まれ大阪在住。25 年前よりめりぃさんと呼ばれだれも本名を呼ばなくなった。自然体験活動、キャンプ、レクリエーションプログラムの指導、企画、コンサルティングを 25 年。15 年前より知的障害児の遊びのクラブを運営。10 年前から行政の要請により「冒険遊び場ちょっとバン」の運営に携わる。運営のかたわら関西で“遊び場を立ち上げたい”という人達の相談に応じ、コンサルティング、ワークショップ等を引き受けている。日本冒険遊び場づくり協会 地域運営委員。
古賀 久貴 こがひさたか	埼玉県	事務局で見てきた全国の冒険遊び場づくり／助成金の申請～活かし方	1972 年福岡市生まれ。玄界灘や筑後の山や川で遊んで育つ。学生時代にはデザイン論・デザイン史を専攻し、「参加のデザイン」について学び、卒業後は、大阪で冒険遊び場づくりの立ち上げおよび大阪府下の遊び場のネットワークづくりに関わる。2000　年～08 年、日本冒険遊び場づくり協会の事務局を担う。日本冒険遊び場づくり協会理事。
齋藤 啓子 さいとうけいこ	東京都	参加のデザイン／子どもの遊び場マップ／遊び場づくりワークショップ／造形ワークショップ／遊び場づくりとコミュニティ／大学と地域の連携	1956 年生まれ。大学助手、世田谷区企画部都市デザイン室、世田谷まちづくりセンターを経て、2004 年より武蔵野美術大学視覚伝達デザイン学科教授。学生時代に世田谷区経堂・桜丘の冒険遊び場づくりに関わり、記録映画「遊ぼう会のおかあさんたち」を卒業制作、仲間と遊び場の記録冊子「続けて遊べ！子どもたち」を編集発行する。それをもって IPA 世界大会で日本の冒険遊び場の様子を初めて紹介した。卒業後は、20 年近く市民参加のまちづくりの事業企画運営に関わる。中高生によるまちづくり情報誌編集を５年間担当し、子どものまちづくりへの参加を広げてきた。大学では学生といっしょに、子どもの造形演劇ワークショップを美術館、公民館などで続けている。日本冒険遊び場づくり協会理事。
佐々木 健二 ささきけんじ	宮城県	子どもの居場所づくりと防犯活動事例／冒険遊び場づくりはまちづくり／冒険遊び場を中心とした事業ミックス／未来の安心社会を支える人材と子ども時代に培われる感性	1965 年岩手県釜石市生まれ。ニックネーム：クロベ。鉄道会社で駅などをつくる仕事をしている。西公園プレーパークの会では、小学生の遊び場「プレーパーク事業」、乳幼児の遊び場「ちびぱーく事業」と、子どもと大人が集いパークマネジメントを行う「西公園応援団事業」を行っている。例えば、「西公園応援団事業」の防犯活動では、ゴミ拾い・水たまりをなくす活動、樹木に名札を付ける活動、挨拶運動を通して、犯罪が起こりにくい西公園を作る活動を行っている。（H20　仙台市防犯アカデミー講師の一人）日本冒険遊び場づくり協会　副代表。
嶋村 仁志 しまむらひとし	東京都	子どもにとっての遊び／冒険遊び場づくり／遊びと危険／海外の事情／子どもの遊びに関わる大人の役割	1968 年東京都昭島市生まれ。イギリスの大学でプレイワークについて学ぶ。1996 年より、東京都世田谷区の羽根木プレーパークにて常駐のプレーリーダーを務める。その後、フリーランスとなり、カナダ、香港、イギリスなどで冒険遊び場づくりを支援、ワークショップ、講演会などを行う。03 年より、川崎市子ども夢パークに勤務。2007 年に「子どもの遊びと大人の役割研究会」を立ち上げる。IPA（子どもの遊ぶ権利のための国際協会）東アジア・太平洋地域副代表。プレーパークむさしの理事兼プレーリーダー。どんぐり山プレーパーク（東京都練馬区）プレーリーダー。日本冒険遊び場づくり協会理事。
菅 博嗣 すがひろつぐ	千葉県	都市公園の管理運営システムと冒険遊び場づくり	東京都文京区生まれ千葉県松戸市育ち。子ども時代は野ウサギの跳ねる里山環境で育つ。多摩ニュータウンでのサバイバルキャンプとスクールのリーダーを 10 年弱、三世代遊び場図鑑づくりに参画。大学時代のテーマは子どもの遊び環境でもある街区公園。仕事では、参加型でのまちや公園づくりをテーマとする事業に多く関わり、茨城県古河総合公園の初代パークマスター、千葉市子どもたちの森公園づくりなどに従事。近年は冒険遊び場づくりを公共空間のマネージメントの観点から考えようとしている。日本冒険遊び場づくり協会理事。
関戸 博樹 せきどひろき	埼玉県	渋谷はるのおがわプレーパークの実践について／コミュニティーワーカーとしてのプレーリーダーの役割／子どもの遊びにおける大人の役割	1981 年東京都昭島市生まれ。原っぱや空き地、廃線などを遊び場に子ども集団の中でたっぷりと遊び育つ。大学時代に社会福祉を学ぶ傍ら、子どもの遊びに関わるサークルに所属。そんな中、子どもの遊び場を社会的に保障することや、地域再生の必要性を感じたことから、市民活動としての冒険遊び場づくりに可能性を見出し関心を持つ。04 年の卒業と同時にオープンした渋谷はるのおがわプレーパーク（東京都渋谷区）の常駐プレーリーダーとなる。08 年より日本冒険遊び場づくり協会理事。あさかプレーパーク（埼玉県朝霞市）、どんぐり山プレーパーク（東京都練馬区）でもプレーリーダーとして活動している。日本冒険遊び場づくり協会理事。
関戸 まゆみ せきどまゆみ	東京都	冒険遊び場とは／子育て／冒険遊び場づくりのススメ／冒険遊び場運営者の悩み相談	東京都新宿区出身、1983 年子育て中に羽根木プレーパークと出会う。地域住民として羽根木プレーパークの会代表、仕事として（福）世田谷ボランティア協会プレーパーク事業担当専門員と、さまざまな立場で冒険遊び場づくりを支え、20 数年経て現在フリー。99 年ＩＰＡ日本支部冒険遊び場情報室設立メンバー。　03 年設立時より現在まで 日本冒険遊び場づくり協会 代表。
横山 紀子 たけうちのりこ	東京都	子どもにとっての遊び／冒険遊び場づくり／プレーリーダーの役割／遊びと危険／常駐プレーリーダー、全国の遊び場の応援の経験を通してのいろいろ	ニックネーム：のりたけ。長崎生まれ徳島育ち。学校の先生になろうと思っていたが、遊びの世界での子どもとの関係に魅力を感じて、大学卒業後、長崎の冒険遊び場「稲佐こども村」の活動にプレーリーダーとして２年間関わる。その後、世田谷の駒沢はらっぱ、羽根木プレーパークの常駐プレーリーダーを経て、現在はNPOプレーパークせたがやのプレーリーダーとして活動中。全国の遊び場つくりの応援として、研修、ワークショップ、講演に出かけている。日本冒険遊び場づくり協会　地域運営委員。
塚本 岳 つかもとがく	愛知県	冒険遊び場、プレーパークとは／乳幼児親子の子育て支援の場としてのプレーパーク	1974 年愛知県刈谷市生まれ。長野で大学生の頃からキャンプ、レク関係で活動し、うたのおにいさんとしても各地をまわる。その後長野の里山保育の幼稚園で６年務める。2006 年から名古屋市てんぱくプレーパークで常駐リーダー、豊田でもプレーリーダーとして勤め始める。今までの自分の活動と比べた時、プレーパークの、誰でも利用できる所や何も強制しない所にひかれ、一気にのめり込む。日本冒険遊び場づくり協会 地域運営委員。
根本 暁生 ねもとあきお	宮城県	冒険遊び場づくりの実践／冒険遊び場運営の実務	1972 年東京都北区生まれ。1995 年、一学生として阪神大震災被災地内での冒険遊び場づくり活動に参加したのがきっかけで、冒険遊び場と出会い、同年立ち上がったばかりの「烏山プレーパークをつくる会」（東京・世田谷区）の活動に加わる。97 年、活動の日常化を目指す段階で初代プレーリーダーとなり、現場・運営の両面から遊び場活動の展開にかかわる。02 年からは、東京・世田谷区内４ヶ所のプレーパークについて、その運営をサポートする事務局の役割を担い、新 NPO 法人設立に携わる。06 年～協会非常勤事務局員（兼務）、08 年～海岸公園冒険広場（仙台市／指定管理者:冒険あそび場-せんだい･みやぎネットワーク・東洋緑化共同企業体）プレーリーダー。日本冒険遊び場づくり協会　地域運営委員。
三浦 幸雄 みうらゆきお	東京都	子どもの遊び環境整備とまちづくり	1951 年秋田市生まれ。建築学科の学生時代に大村夫妻翻訳の「都市の遊び場」を手に取り冒険遊び場に興味を持ったのがきっかけで、東京都世田谷区桜丘の冒険遊び場に参画。国際児童年(1979)を契機に官民協働の冒険遊び場「羽根木プレーパーク」を立上げ、その後数年運営にも参加。居住地の区立児童館の地域懇談会「ぽんぽこむらおやだぬきの会」を組織し十数年活動。現在の活動は、当協会の理事としてのみ。都市計画コンサルタント事務所に勤務。建築家。　日本冒険遊び場づくり協会　副代表。
米山 清美 よねやまきよみ	兵庫県	遊びを通した子育て支援のあり方／災害と子育て／子どもの発達と遊び/地域のつながり／行政とのパートナーシップ／冒険遊び場運営　など	にしのみや遊び場つくろう会代表。神戸生まれ、小１より西宮市在住。公立幼稚園教諭を退職後現在まで 20 数年間未就園児保育に従事。阪神大震災直後には市立児童館で地域住民のための託児を実施。冒険遊び場には保護者を通して出会い、その思いと震災後の更地の有効利用をきっかけに 1999 年市民ネットワークを立ち上げ冒険遊び場を運営。また校区子ども会代表などの地域活動から、地域と冒険遊び場とのつながりにも着目。現在は県や市など行政をはじめ、社会福祉協議会、学校現場、発達障害の子どもの親の会などとも繋がりながら遊び場づくりや啓発活動を実施。様々な世代をはじめ、子育て支援者や保育者にもアプローチしている。日本冒険遊び場づくり協会 地域運営委員。